

垂水島津家

～薩摩藩 77 万石を支えた一門家～

垂水島津家は一門家（加治木・重富・垂水・今和泉）の一つで鹿児島藩最高位の家柄です。初代忠将から 16 代貴暢まで続き、約 260 年間垂水を治めました。

福山の廻で戦死した初代忠将の子、2 代以久は慶長 4 年（西暦 1599）垂水城（荒崎城）に居城しますが、徳川幕府の命で同 8 年（西暦 1603）日向の佐土原へ移封、初代佐土原藩主となります。朝鮮出兵で病死した 3 代彰久の妻、“新城様”は 16 代太守島津義久の娘です。4 代久信は慶長 16 年（西暦 1611）、林之城（現垂水小学校）を築城し、垂水城から移ってきます。島津久章（久信の庶子）を初代として寛永 13 年（西暦 1636）新城島津家が創建されました。

7 代の久治から始まったよめじょ川疎水工事は、9 代貴儔の時代に完成、享保 5 年（西暦 1720）には柘原村、野里村を合し、家禄 18,000 石となりました。また、現在の垂水市の商店街が出来たのもこの頃です。

藩政時代、垂水は学問が大変盛んで、10 代貴澄は安永 5 年（西暦 1776）、学問所「文行館」を創設しました。

9 代貴儔の長女都美の孫は、11 代將軍徳川家斉に嫁いだ茂姫（広大院）です。

14 代貴敦の妻八百姫は、25 代太守島津重豪の孫で、13 代將軍徳川家定の御台所として候補に挙がった人です。八百姫は茂姫の姪に当たります。15 代貴徳は垂水市内の小学校長を務め、16 代貴暢は男爵となり、妻の草子は我が国最初の女性医学・文学博士となりました。



14 垂水島津家墓地（垂水市指定史跡）



15 宝篋印塔「9代貴儔公」の墓



16 巨大な六地藏塔



17 島津家菩提寺「成就院」跡



18 徳川 13 代家定正室候補「八百姫」の墓



19 島津草子医学文学碑



20 お長屋（垂水市指定史跡）

400 年以上の歴史を持ち、貴重な木造建築物です。下級武士の詰め所とされています。



21 お長屋 (北側)



22 居城林之城跡 (現垂水小学校)

垂水城 (荒崎城) が手狭になったので、垂水島津家 4 代領主久信は、慶長 16 年 (西暦 1611) 林之城を築城し、家臣団とともに移ってきました。当時は山林原野だったため「林之城」と言われていましたが幕府の一国一城令により後に、「館」「お仮屋」と呼ばれるようになりました。



23 林之城築城記念碑



24 初代忠将を祀る「御殿加神社」
おでんか



25 武家門



26 蔵



27 昔をしのばせる麓町



28 疎水墾田の碑

垂水島津家 7 代久治、8 代忠直、9 代貴儔の 3 人のお殿様は本城川から分水 (よめじょ川) し、垂水市の水之上などに広大な田園地帯を作りました。総事業費 (3 万両 = 現在の約 50 億円とも言われています。)



29 学問所「文行館跡」



30 新城様の墓 (垂水市指定史跡)

新城様は島津 16 代義久の二女で垂水島津家 3 代彰久に嫁し、化粧料として新城、鹿屋、高須等 3,700 石を賜りました。後に子、久信の庶子久章に化粧料をゆずり、新城島津家を創立しました。



31 新城島津家お仮屋跡



32 鹿児島県民交流センターに建つ垂水市島津家屋敷跡の碑